

1 活動名・教科等

「命の大切さについて考えよう」 (道徳)

2 期日・時間

10月26日 5校時(13:45~14:30)

3 場所

細島小学校 4年生教室

4 講師名

細山田 恵美子さん(社会福祉協議会：日向市老人福祉センター：赤ちゃん訪問員)

5 参加者(当日参加する全て)

4年生(14名)

6 活動のねらいと育てたい力

(活動のねらい)

- ・命が誕生することはとても尊いものであることを知り、自他の命を大切にしようとする心情を育てる。

(育てたい5つの力)

- ・自分を支えてくれている周りの人の存在に気づき、周りに感謝し、思いやりの気持ちを高めることができる。(つながる力・気付く力)
- ・話を聞いたり、体験したりしながら、命について考えることができる。(解決する力)
- ・講師の話を聞き、命の尊さやこれから成長していく自分の在り方について考えることができる。(夢に向かう力)

7 児童に伝えてほしいこと

- ・障害児のケア、乳幼児のお世話、高齢者福祉等での細山田さんの経験談を話していただきたい。
- ・一人一人が大切な命だということを実感できる体験やお話をに入れていただきたい。

8 当日までに指導したこと

- ・保健の「育ちゆくわたし」の授業で、思春期の心と体の成長の変化や命の誕生についての学習を行った。
- ・国語の「ごんぎつね」の授業で、命について考える場面を取り入れた。

9 当日の流れ

学習内容及び学習活動	指導者の動き・指導上の留意点	準備等
1 講師の紹介 ・細山田 恵美子さん 2 人間と動物の赤ちゃんの違いを知る。 3 本時のめあてをつかむ。 命の大切さについて考えよう	・赤ちゃん訪問員の仕事を紹介する。 ・人間と動物の赤ちゃんの違いについて、知らせることで、人間は、周りの人に支えられながら生きていくことに気付かせる。	人間と動物の赤ちゃんの写真 めあてカード
4 講師の家族の話を聞く。 ・お子さんについて。 	・4人の体重に注目させ赤ちゃんのおおよその体重を把握させる。	お子さんの名前と体重が書かれた掲示物
5 赤ちゃんの体重を体感する。 ・ベビちゃん人形を抱く。 	・抱く時に気をつけることを伝える。 ・ベビちゃん人形を抱くことで自分の赤ちゃんの時の重さや体の様子を体感し、命の重みを実感させる。	ベビちゃん人形
6 講師の話を聞く。 ・命のはじまりについて。 ・命の大切さとは。	・専門的な話をする。 ・命の大切さについて意識付けを図る。	卵子や精子の資料 命の大切さについて書かれた掲示物
7 自分を振り返る。 ・今日の学習で命について考えたことを書く。	・今日の学習を通して感じたことを書く。	ワークシート
8 今日の学習を振り、講師にお礼の言葉を伝える。	・生まれてきた命やそこに関わるたくさんの人の存在の話をすることで、命の大切さと感謝や思いやりの気持ちをもつことができるようにする。	

10 事後指導

- ・ 本時の活動を振り返った後、細山田さんにお礼の手紙を書く。
- ・ 学級活動で、互いを思いやることの大切さについての授業を行う。
- ・ 保護者にも、本時の内容を知らせ、家庭でも話題にしてもらうよう呼びかける。

11 児童の感想

- 命は、相手のことも大切にしないといけないことを考えた。赤ちゃんをだっこして、首がやわらかくて、だっこするのはたいへんと思った。40万個の中からえらばれてすごいと思った。
- 命をこんどもっともっていききたい。それから、赤ちゃんのだっこのしかたを気をつけたい。3000gがこんなに重たいのかと思った。またベビちゃんをだっこしたい。
- ベビちゃん人形をもったときに、ものすごく重く、やわらかく感じた。命がものすごく大切なものだとならためて知った。そして、自分が生まれてきたことが「きせき」ということを知った。
- 卵子に精子が入ったら、命ができてバリアされて、(精子が)1つしか入れないのが勉強になった。
- 命の大切さについてくわしくわかった。はじめて知った。よくわかった。3000gの赤ちゃんは、初めてだったので、重かった。かわいかったし、やわらかかった。
- 赤ちゃんをだっこしてみて、とてもびっくりした。赤ちゃんの足や手がとても小さくてぷにぷににしている、思ったより重たかったのでびっくりした。赤ちゃんのだっこのしかたもたくさん知れたので、いいきかいだったなと思った。
- 命は大切なものということ。生まれた子はだいたい3000gぐらいで生まれてくる。ゆさぶったらだめ。赤ちゃんをもった時、こわかった。おなかの中で、頭をかいたり、はなをふいたりしている。
- 赤ちゃんをだっこしてみて、本当の赤ちゃんと同じくらいの重さだった。まわりの友だちと仲よくする。
- これからは、いのちを大事にしようと思った。生まれた赤ちゃんは、かるいと思ったら、あんがい重かった。
- いのちをたいせつにしたいなあと考えた。これからも、ともだちにやさしくしようと思った。ベビちゃんをだっこしたときも、おもたいなあとあったり、自分もそうだったんだなあとあったりした。これからも、いのちを大切にしたいなあと考えた。
- 命を大事にしたいなあと考えた。赤ちゃんをだっこするときは、教えてもらったことをしたいなあと思う。赤ちゃんが、おなかの中に入って出てくるのとかもいろんなことを知った。
- お母さんたちが、子どもたち(自分)をああいいうふうに育てていた事が分かった。首がすごく曲がるから、むずかしかった。命を大切にしないといけないと思った。だいたい3000gだと知った。ちょっと重かった。
- 1～3億…この中で生まれたのは、きせきに近いことに気づいた。そして、今日ベビちゃん人形を初めて手にしたら、少し重くて、だいたら少しむずかしかった。命が大切なのは、初めて気づいた。

- 今日、初めて赤ちゃんをだっこした。家に赤ちゃんがいないので、すっごくうれしかった。あまり命の事や生まれてきた幸せなどを考えたことがなくて、命の大切さがわかった。

12 授業者の気づきや学び

- ベビちゃん人形を抱く体験活動と、講師の話を聞いて命について自分を振り返る活動の時間を十分確保するために、導入をもっと簡潔に進めるべきだった。
- 命の重さを体感する活動を取り入れたことは、児童が命についてより具体的に考えるよいきっかけとなった。
- 学習内容の組み立て方や資料の提示の仕方で、児童の興味関心を高めたり、集中力を持続させるための工夫について、講師からよいアドバイスをいただくことができた。